

ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

日本医療福祉生協連 近畿ブロック

2011年7月4日 No. 53
発行担当 尼崎医療生協・山口
みやぎ県南医療生協 槻木事務所
連絡先: 090-6056-8275

7月3日、前日のいっせいボランティア活動の実績点検、今後の対策の検討などに、各所を回りました。



Sさん宅

庭の泥出しが完了し、土嚢袋が200袋搬出されました。一部の床がはがされましたが、その続きの床はがし、泥出しが求められています。



Iさん宅

大工さんを先頭に壁はがしや、泥出しを行いました。町の瓦礫回収があるということで、作業しておられました。引き続き支援が必要です。

「吉村さん長期間ありがとうございました」

吉村さん「三月までは高校教師をしていましたが、震災後、支援活動をしたいと山口健文会に名乗りを上げていました。そこに、みやぎ県南にボランティアセンターができたので行ってみないかと話があり、それならと引き受けました」

「活動を通して、一番印象に残ったことはなんでしょうか」

吉村さん「住民自治が大切だなあというのが一番の印象です。旧坂元中学校の仮設住宅では、Sさんを中心に自治会ができ、住民に要求を聞き取ることを通じて扇風機を全仮設に贈りました。残念ながら他の仮設住宅には自治会がまだありません。そうした自治組織ができるように手助けをするのも、支援に入るわれわれの大きな使命ではないでしょうか」

たくさんの知り合いもできたとおっしゃる吉村さん。後をしっかりと引き継ぎ頑張っていきたいと思えます。長期間お疲れ様でした。(聞き手: 尼崎医療生協 山口)



住民自治が何より大切

3日、6月8日から一ヶ月近くにおわたって現場指揮をとってくださった山口健文会の吉村さんが任務を終え、地元に戻られました。県南を離れるにあたって、お話を伺いました。

「最初に県南に入るきっかけは何だったのですか」